

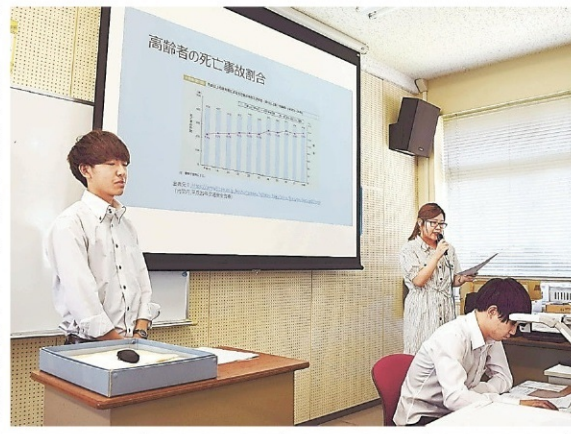
仁愛大生 地域課題挑む

越前市職員に政策提案

仁愛大生が地域課題について研究し、解決に向けて考えた政策を市職員に提案する授業が26日、越前市の同大で開かれた。高齢者の交通事故、少子化対策、外国人児童の日本語教育、空き家問題などの課題に対し、若者ならではの柔軟な発想のアイデアが披露された。

人間学部コミュニケーション学科の2年生34人が、非常勤講師を務める京都橘大の竹内直人教授の指導の下で4月から取り組んできた専門科目「公共政策」の成果発表。5グループに分かれ、新聞記事

越前市の地域課題を解決する政策を考えて発表する仁愛大生＝26日、越前市の同大



を参考に越前市が直面する課題を選んだ。統計データや現在の行政の取り組みを調べた上で新たな政策を考えた。少子化の要因の一つに「親が抱える子育てや教育に対する金銭面の不安がある」と

分析したグループは、行政が利子や返済の一部を負担するローン制度を提案。返済方法は子どもが自立してから▽子ども自身が返す▽親が返すの2パターンを用意し、それぞれの長所短所も想

定した。

越前市に多い外国人児童の日本語教育については、日本語指導の専門家育てる教職課程を大学に新設する案を発表。大学の付属幼稚園で実習するカリキュラムの例も示し、政策の実効性を強調した。

授業には、題材となった行政課題に取り組む越前市職員5人も参加。「今後の参考に」と学生たちの成果を評価した上で、プロ目線から、政策立案の考え方や現行の政策の成果についても解説していた。(高島健)